

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： 男児鼠径ヘルニア嵌頓後に生じる精巣萎縮の検討

研究の目的

鼠径ヘルニアは小児外科で日常的に遭遇する疾患ですが、ヘルニア嵌頓(=脱出した臓器が戻らなくなることを呈すると脱出臓器の絞扼(=脱出臓器に血が流れていかず、壊死になっていくこと)により血流低下、臓器壊死、敗血症、多臓器不全にまで至る可能性のある重篤な病態となります。嵌頓後は速やかな整復(=脱出してきたヘルニア内容を腹腔内に戻すこと)を要しますが、男児では稀に整復後に精巣が萎縮する症例も経験します。しかしながら、精巣萎縮の発生頻度や機序はよくわかっていません。本研究では男児鼠径ヘルニア嵌頓後の精巣萎縮について、どのような特徴を有する症例が精巣萎縮になる可能性があるのかを検討し、嵌頓後の治療における注意点やポイントを追求することにより今後の手術やフォローアップについて理解が深まりより良い診療につながると考えられます。

研究実施期間： 実施許可日 ～ 2027年3月31日

対象となる方： 2014年4月1日～2025年12月31日までに当科で鼠径ヘルニア嵌頓治療もしくは嵌頓後の鼠径ヘルニア手術を施行した男児の方

利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

当院のカルテに記録されている情報のうち、手術情報と現在の状況について標記研究課題実施のために利用します。

具体的には、児の在胎週数、出生体重、嵌頓時の月齢、嵌頓整復の方法、整復までに要した時間、手術時月齢、術式、精巣萎縮の有無を検討します。なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して(これを匿名化といいます)、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先

小児外科 小林完 Tel:0172-39-5079 Email:tm2.koba@hirosaki-u.ac.jp